

基準 8 専攻科課程の教育活動の状況

評価の視点 8-1 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教育課程が体系的に編成され、専攻科課程としてふさわしい授業形態、学習指導法等が採用され、適切な研究指導等が行われていること。また、専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）並びに修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価・単位認定及び修了認定が適切に行われており、有効なものとなっていること。	
観点 8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。	
【留意点】 ○ 観点 1-2-⑤の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえた授業科目の配置となっているか分析すること。 ○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
（根拠理由欄） 特例適用専攻科の審査結果より、授業科目を学年毎に適切に配置し、体系的に編成されている。	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて、適切な授業科目を体系的に配置しているか。 □配置している □配置していない	◇カリキュラム一覧表、授業科目系統図等の授業科目配置状況がわかる資料
観点 8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	
【留意点】 ○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科又は J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	

(根拠理由欄) 特例適用専攻科の審査結果より、準学士課程の教育との連携及び準学士課程の教育からの発展を考慮した教育課程となっている。	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 専攻科の教育課程は、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮しているか。 ☐ 考慮している ☐ 考慮していない	◇連携及び発展等の考慮状況がわかる資料
観点 8-1-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか。	
【留意点】 ○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない (根拠理由欄)	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、講義、演習、実験、実習等の適切な授業形態が採用されているか。 ☒ 採用されている ☐ 採用されていない	◇授業形態の開講状況（バランスを含む。）がわかる資料 8-1-③-(1)-1(p760) 授業科目一覧とカリキュラムの流れが分かる資料 8-1-③-(1)-2(p764) 講義・演習・実験・実習のバランスが分かる資料 ◆授業形態のバランスが適切であることについて、資料を基に記述する。 資料 8-1-③-(1)-1(p760)に基づき、授業形態の割合を算出すると、試料 8-1-③-(1)-2(p764)に示す通り、講義 54%、演習 17%、実験 6%そして研究 24%と、研究の割合が全体の約 1/4 となっている。よって CP に照らして適正なバランスである。
(2) 教育内容に応じて行っている、学習指導上の工夫には、どのような工夫があるか。（該当する選択肢にチェック）	◇チェックした項目の実施状況がわかる資料 以下の 3 種類を作成する

ック■する。) ☐教材の工夫 ☒少人数教育 ☐対話・討論型授業 ☒フィールド型授業 ☒情報機器の活用 ☐基礎学力不足の学生に対する配慮 ☐一般科目と専門科目との連携 ☐その他	8-1-③-(2)-1(p765) 学習指導上の工夫：少人数教育が分かる資料（学生在籍者数調） 8-1-③-(2)-2(p766) 学習指導上の工夫：フィールド型授業が分かる資料 8-1-③-(2)-3(p769) 学習指導上の工夫：情報機器の活用が分かる資料（シラバス：総合英語 C） ◆その他の項目をチェックした場合は、その内容を列記し、その状況がわかる資料を提示する。 (資料番号 8-1-③-(2)-1(p765))の在籍者人数表に示すように専攻科は1コース7名程度×4コースの1学年28名程度と少人数である。(資料 8-1-③-(2)-2(p766))にはフィールド型授業として第一学年の後期の科目であるエンジニアリングデザイン (ED)は、3～4 名程度の少人数のグループを結成して地域企業や関係機関の課題解決に取り組んでいる。また、情報機器を活用した授業としてパソコンを用いた授業（資料 8-1-③-(2)-3(p769))を取り込むなど、様々な指導上の工夫を凝らしている。
観点 8－1－④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	
【留意点】 ○ 教養教育の実施状況や学生の研究指導が、学校教育法上の目的及び学校の教育の目的を達成する上で適切なものであるかどうかを分析すること。 ○ 本評価書 I (1) 4. において、特例適用専攻科について記載した場合は、その結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の項目について、個別の記入は要しない。	
関係法令	(法)第 119 条第 2 項
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒満たしていると判断する ☐満たしていると判断しない （根拠理由欄） 特例適用専攻科の審査結果より、教養教育や研究指導が適切に行われている。	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生への教養教育や研究指導を、適切に行っているか。 ☐行っている ☐行っていない	◇教養教育や研究指導の実施状況がわかる資料
観点 8－1－⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に	

従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか。	
【留意点】 ○ 本評価書Ⅰ(1)4.において、JABEE認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
（根拠理由欄）	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 成績評価や単位認定に関する基準を、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、策定しているか。 ■策定している □策定していない	◇成績評価や単位認定に関する規定等の該当箇所 8-1-⑤-(1)-1(p770) 成績評価や単位認定に関する規定 (CP) 8-1-⑤-(1)-2(p772) 成績評価や単位認定に関する規定 8-1-⑤-(1)-3(p773) 成績評価や単位認定に関する規定
(2) 成績評価や単位認定に関する基準に基づき、各授業科目の単位認定等を行っているか。 ■行っている □行っていない	◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることがわかる資料 8-1-⑤-(2)-1(p774) 成績評価が適切に実施されていることが分かる資料 8-1-⑤-(2)-2(p775) 成績評価が適切におこなわれていることが分かる資料 8-1-⑤-(2)-3(p776) 成績評価に関する委員会資料 成績判定資料（訪問調査時に閲覧） 8-1-⑤-(2)-4(p777) 成績評価の実施が分かる資料 ★科目ごと成績エビデンスファイル（※訪問調査時閲覧 (p778~p796)）
(3) 1単位の履修時間が授業時間以外の学修と合わせて45時間である授業科目を配置している場合、授業時間以外の学修についての評価がシラバス記載どおりに行われていることを学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	◇学校として把握していることがわかる資料 8-1-⑤-(3)-1(p797) 授業時間以外の学修が分かる資料 8-1-⑤-(3)-2(p798) 授業時間以外の学修が分かる資料
(4) 成績評価や単位認定に関する基準を学生に周知しているか。	◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料

■周知している □周知していない	8-1-⑤-(4)-1(p806) 成績評価と単位認定の周知の取り組みが分かる資料 8-1-⑤-(4)-2(p808) 成績評価や単位認定の周知がわかる資料
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない	◇認知状況がわかる資料 8-1-⑤-(5)-1(p811) 認知状況が分かる資料
(6) 追試、再試の成績評価方法を定めているか。 ■ある □ない	◇追試、再試の成績評価の規程等がわかる資料 8-1-⑤-(6)-1(p819) 追試・再試の規定が分かる資料
(7) 成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会があるか。 ■ある □ない	◇成績評価結果に関する学生からの意見申立の機会の規定等がわかる資料 8-1-⑤-(7)-1(p820) 意見申立の機会の規定が分かる資料 8-1-⑤-(7)-2(p822) 意見申立の機会の規定が分かる資料
(8) 成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、どのような組織的な措置を行っているか。(該当する選択肢にチェック■する。) □成績評価の妥当性の事後チェック ■答案の返却 ■模範解答や採点基準の提示 □GPAの進級判定への利用 □成績分布のガイドラインの設定 ■複数年次にわたり同じ試験問題が繰り返されていないことのチェック ■試験問題のレベルが適切であることのチェック □その他	◆実施状況や成績分布を踏まえて、成績評価や単位認定における基準の客観性・厳格性を担保するための措置が、有効に機能しているかどうかについて、資料を基に記述する。 8-1-⑤-(8)-1(p823) 基準の客観性の機能（返却）が分かる資料 8-1-⑤-(8)-2(p825) 基準の客観性の機能（模範解答）が分かる資料 8-1-⑤-(8)-3(p828) 基準の客観性の機能（複数年度）が分かる資料 8-1-⑤-(8)-4(p831) 基準の客観性の機能（レベル）が分かる資料 過去2年間（H29（資料 8-1-⑤-(8)-2(p825)）およびH28(資料 8-1-⑤-(8)-3(p828)））の試験問題と解答例として環境都市・建築デザインコースの専門科目である海岸港湾工学の試験の答案を示す。試験問題は毎年変えて出題している。また試験問題のレベルは技術士補レベル相当である(資料 8-1-⑤-(8)-4(p831))。今後は、全科目を対象としたエビデンスの抜き取り調査が必要である。 ◆その他の項目にチェックした場合は、具体的な内容を記述する。

観点 8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか。		
【留意点】なし。 ○ 本評価書 I (1) 4. において、J A B E E 認定プログラムについて記載した場合は、その評価結果を利用できる。利用する場合は、当該結果を根拠として本観点全体の判断を行うこととし、根拠理由欄に、この結果を踏まえた根拠理由を記述すること。自己点検・評価結果欄の各項目について、個別の記入は要しない。		
関係法令	(法) 第 119 条第 2 項	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）		
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない		
（根拠理由欄）		
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）		自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学則等に、修業年限を 1 年以上と定めているか。 ■定めている □定めていない		◇学則等の該当箇所がわかる資料 8-1-⑥-(1)-1(p833) 修業年度が分かる資料 8-1-⑥-(1)-2(p834) 修業年限が分かる資料
(2) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、修了認定基準を定めているか。 ■定めている □定めていない		◇定めている該当規程や修了認定基準 8-1-⑥-(2)-1(p835) DP が分かる資料 8-1-⑥-(2)-2(p836) DP が分かる資料 8-1-⑥-(2)-3(p837) DP が分かる資料
(3) 修了認定基準に基づき、修了認定しているか。 ■認定している □認定していない		◇関係する委員会等の会議資料 8-1-⑥-(3)-1(p839) 修了認定基準に基づいた認定が分かる資料 8-1-⑥-(3)-2(p840) 修了認定が分かる資料 8-1-⑥-(3)-3(p847) 修了認定が分かる資料
(4) 修了認定基準を学生に周知しているか。 ■周知している □周知していない		◇周知を図る取組の内容（学生の手引きへの掲載、ウェブサイトでの明示等。）がわかる資料 8-1-⑥-(4)-1(p848) 修了認定の周知が分かる資料
(5) (4)について、学生の認知状況を学校として把握しているか。 ■把握している □把握していない		◇学生の認知状況を把握していることがわかる資料 8-1-⑥-(5)-1(p849) 学生の認知状況の把握が分かる資料

8-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。 特に専攻科課程の教育課程及び教育方法に関して、準学士課程の5-1及び5-2の内容を参考に、特記すべき個性や特色等があれば、自由に記入すること。	
再試験は実施していない。	
評価の視点 8-2 専攻科課程としての入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切に運用されており、適正な数の入学状況であること。	
観点8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。	
【留意点】 ○ 合否判定基準については、提示できるものがあれば、提示すること。自己評価書での提示が不可能な場合は、訪問調査時に提示すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）、特に入学者選抜の基本方針に沿った入学者選抜方法（学生募集の方針、選抜区分（学力選抜、推薦選抜等）、面接内容、配点・出題方針等）となっているか。 ■なっている □なっていない	◇入学者選抜要項、面接要領、合否判定基準、入学試験実施状況等がわかる資料 8-2-①-(1)-1 (p857)AP と選抜方法が分かる資料 8-2-①-(1)-2(p859) AP に沿った入学選抜が分かる資料（訪問調査時閲覧） 8-2-①-(1)-3(p860) AP に沿った入学選抜が分かる資料（訪問調査時閲覧） 8-2-①-(1)-4(p861) AP に沿った入学選抜が分かる資料（訪問調査時閲覧） 8-2-①-(1)-5(p862) AP に沿った入学選抜が分かる資料（訪問調査時閲覧）
観点8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 検証及び検証結果を改善に役立てる体制を整備して	◇改善のための体制に関する資料

いるか。 ■整備している □整備していない	8-2-②-(1)-1(p863)_改善のための体制が分かる資料
(2) (1)の体制の下、実際に入学した学生が、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿っているかどうかの検証を行っているか。 ■行っている □行っていない	◇検証を行った結果の資料 8-2-②-(2)-1(p865) AP に沿った受入が分かる資料 8-2-②-(2)-2(p866) AP に沿った入学選抜が分かる資料（訪問時間覧）
(3) (2)の検証の結果を入学者選抜の改善に役立てているか。 ■改善に役立てている □改善に役立てていない	◆検証の結果に基づいた具体的な改善の実施状況を踏まえて、検証の結果を改善に役立てている状況について、資料を基に記述する。 8-2-②-(3)-1(p867) 入学動機アンケートの集計結果に関する資料 専攻科入学動機のアンケートより、学費の安さ、学士の取得や大学院への進学を理由としている学生が多い。また、海外との国際交流に興味がある学生は 65%、他分野に興味がある学生は 90%、地域課題に興味がある学生は 70%となっており、AP に沿った学生が入学している。
観点 8－2－③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	
【留意点】 ○ (2)の体制の整備は、必ずしもこの取組のためだけの組織を整備することを求めているのではなく、既存の委員会で対応することとなっている場合には、当該委員会に関する規定の所掌において定員と実入学者数との関係の把握と必要な改善のための取組が明示されていることを分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生定員を専攻ごとに学則等で定めているか。 ■定めている □定めていない	◇学則等の該当箇所 8-2-③-(1)-1(p868) 学生定員が分かる資料 （学生便覧(H30 抜粋：p.79-80 第 8 章専攻科 43 条） 8-2-③-(1)-2(p870) 学生定員が分かる資料 （専攻科学生募集要項(H30 抜粋：学生定員数）
(2) 専攻ごとの入学定員と実入学者数との関係を把握し、改善を図るための体制を整備しているか。	◇体制の整備に係る規程等がわかる資料 8-2-③-(2)-1(p871)_入学定員の整備体制が分かる資料

☒ 整備している ☐ 整備していない	(入学者選抜委員会規則)
(3) 過去5年間の専攻ごとの入学定員に対する実入学者数が適正であるか。 ☒ 適正である ☐ 超過又は不足がある	◇【別添】平均入学定員充足率計算表 8-2-③-(3)-1(p873)_入学定員の適正が分かる資料
(4) 過去5年間で、実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合は、改善の取組を行っているか。 ☒ 行っている ☐ 行っていない ☐ 過去5年間で大幅に超過、大幅に不足していないので、該当しない	◆大幅に超過、又は大幅に不足している状況にあった場合には、該当する専攻について、実入学者数の改善に資する取組や教育環境等の改善により教育等に支障が生じないように取った対応等、実際に行った事例がわかる資料を基に記述する。 平成26年度入学生数（定員16名）は32名と募集定員の2倍であったが、講義・研究施設などの教育には支障がなかった。受入学生数が増加傾向となるため、平成27年度の改組を機に募集定員を変更した。
8-2 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
評価の視点 8-3 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に照らして、学習・教育・研究の成果が認められること。	
観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ 学生の成績（修了時のGPA値等。）や修業年限修了率、単位修得率（登録授業単位数に対する修得単位数の率。）等、成果を総合的に分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ☒ 整備している ☐ 整備していない	◇体制の整備状況がわかる資料 8-3-①-(1)-1(p876) 修了時の能力等の把握・評価体制が分かる資料（H30年度学生便覧（抜粋）(9)専攻科授業科目の履修等に関する規則 p.199-201） ※ 間接的な把握・評価体制
(2) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について	8-3-①-(1)-2(p879) 修了時の能力等の把握・評価体制が分

て、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価しているか。 ■把握・評価している □把握・評価していない	かる資料（教育プログラム計画委員会規則） 8-3-①-(1)-3(p881) 修了時の能力等の把握・評価体制が分かる資料（点検・評価規則）
(3) (2)の結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	◇成績評価・修了認定等に関するデータ・資料 8-3-①-(3)-1(p884) 成績評価・修了認定に関する資料（海外派遣一覧表） 8-3-①-(3)-2(p885) 特別研究テーマと指導教員が分かる資料 8-3-①-(3)-3(p886) 成績評価と修了認定が分かる資料（学生便覧、抜粋） ◇把握・評価の実施状況がわかる資料 8-3-①-(3)-4(p888) 把握・評価の実施状況が分かる資料（成績判定会議（専攻科：抜粋）） 8-3-①-(3)-5(p908) 把握・評価の実施状況が分かる資料（第12回専攻科委員会(平成29年度)） 8-3-①-(3)-6（訪問時間閲覧資料） 専攻科修了時の平均点一覧表 ◆左記(2)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。 成績評価は、専攻科委員会会議を経て認定し、校長に報告している。修了認定は修了認定会議を経て認定している。 修了要件から本専攻科のディプロマ・ポリシーであるDP1～5を満足している。DP1は一般科目の修得単位数、DP2は専攻共通科目およびDP3は専攻専門科目の修得単位数、DP4は地域課題解決科目（ED）や特別研究（資料8-3-①-(3)-2(p885)）、DP5は工学研修、特別研究と英語力（資料8-3-①-(3)-1(p884)海外派遣例）の修了要件、これらを満たした学生が本専攻科のディプロマ・ポリシーを満足していると判定できる。また、学生の修得状況を成績判定資料、修了判定資料により把握・評価することができる。 資料8-3-①-(3)-6(訪問時間閲覧資料)には修了時の成績平均の推移を示している。全科目対象、一般・専攻共通科目そして専門科目と分類して算出した結果である。年度変化に数点の変動は有るものの、いずれも80点以上と高得点を修めている。 また、ディプロマ・ポリシーは運営委員会、教育プログ

	ラム委員会では毎年見直し、把握・評価している。 これらのことから、DP に照らして学習・教育・研究の成果が認められる。
観点 8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ (1) の体制の整備が、観点 8-3-①と同じ体制で実施されている場合には観点 8-3-①と同じ資料となる。 ○ (2) (3) (4) は、観点 1-1-③で分析している種々の評価結果の一部と同一のものであるため、内容の整合性に留意して分析すること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づいて、学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制を整備しているか。 ■整備している □整備していない	◇体制の整備状況がわかる資料 8-3-②-(1)-1(p909) 意見聴取の体制が分かる資料（教育プログラム計画委員会規則） 8-3-②-(1)-2(p911) 意見聴取の体制整備が分かる資料（教育プログラム点検・評価委員会規則）
(2) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	◇意見聴取の結果に関するデータ・資料 8-3-②-(1)-3(p913) 意見聴取の結果が分かる資料（学習・教育到達目標の達成度記録簿） 8-3-②-(1)-4(p915) 修了生用アンケート依頼文 8-3-②-(1)-5(p916) 企業・機関用アンケート依頼文
(3) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	8-3-②-(1)-6(p917) 修了生のアンケート結果 8-3-②-(1)-7(p921) 就職先企業アンケート結果
(4) 学生が修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか。 ■行っている □行っていない	◇把握・評価の実施状況がわかる資料 8-3-②-(1)-8(p928) 平成 29 年度八戸高専自己点検・評価表)
(5) (2)～(4) の評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる	◆左記(2)～(4)及び上記の資料を踏まえて、学習・教育・研究の成果が認められることについて、資料を基に記述する。 教育プログラム計画委員会において、学生・卒業生・修了生及び就職先のアンケート、達成度記録簿の作成と実施を行っている（8-3-②-(1)-3～5(p913～p916)）。評価は運営委員会及び教育プログラム計画委員会より自己評価書に

☐ 認められない	より評価し、評議員会による外部評価を行っている（8-3-②-(1)-8(p928)）。 修了時は、達成度記録簿をコース主任が記入内容を確認・報告し、学習・教育の成果の把握・評価を行っており（8-3-②-(1)-3(p913)）、成果が認められる。 修了生については、アンケート結果より(資料 8-3-②-(1)-6(p917))、6割以上の学生が修了してよかった、同年代と比較して教養や国際社会への関心が高いと回答し、学習・教育・研究の成果が認められる。 進路関係者については、アンケート結果より(資料 8-3-②-(1)-7(p921))9割が今後も採用予定が有る事、7割以上が同年代の従業員と比較して専門的知識・技術力が高いと返答しており、成果が認められる。
観点 8－3－③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】なし。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ■満たしていると判断する □満たしていると判断しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 学校として把握している最近 5 年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。 ■認められる □認められない	◇【別添】修了者進路実績表 ◆就職率・進学率や就職先等から、養成しようとする人材像にかなった成果が得られているかどうかについて、資料を基に記述する。 大学院への進学率・就職率は 5 年間 100%を堅持しており、学習・教育の成果が表れている。主な進学先には理工系大学院、主な就職先には製造業に就職している。 これらの就職先や進学先から、社会の変化や多様なニーズに対応できるよう、高度な専門知識と技術を教授研究し、創造性と研究開発能力を兼ね備え、ものづくり・システムづくりを先導でき、かつ国際的に通じる英語力を有した実践的専門的技術者の育成に適していると判断できる。
(2) 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 ■なっている □なっていない	
観点 8－3－④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか。	
【留意点】 ○ 学位の取得を目的としていない専攻科については、「□学位の取得を目的としていないので、該当しない」の欄	

をチェックすること。	
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	
以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 ☒ 満たしていると判断する ☐ 満たしていると判断しない ☐ 学位の取得を目的としていないので、該当しない	
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
(1) 過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか。 ☒ 認められる ☐ 認められない	◇学位取得状況がわかる資料 8-3-④-(1)-1(p932) 専攻科修了認定表 H3003 修了生（原本は訪問調査時閲覧）
8-3 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。	
大学院進学と就職率は専攻科設置以来 100%を維持しており、教育機関や産業界からの要請に応えた人材育成の体制が整っていると判断できる。	

基準8

優れた点
平成14年に専攻科が設置されて以来、就職と大学院への進学は100%を継続している。地元企業への技術的支援および特別研究の英語による最終発表、さらに国内外での学会発表の実績等により、創造的能力が備わった修了である。専攻科第一学年では、3か月あるいは6ヶ月間の海外研修（フランスやオーストラリア等）に参加する学生も多くいる。また、数週間程度の海外での企業研修に参加する事もある。国内の企業等とは、エンジニアリングデザイン（ED）で課題発見から解決策立案・製作および実験そして評価を行い、技術者としての素養を身に付けている。）
改善を要する点
該当無し